

本資料は抜粋となっております。全ての内容を書き込んだ記憶媒体を当センターにて配付しております。詳細については下記までお問い合わせください。

連絡先

電話 : 0270-26-9208

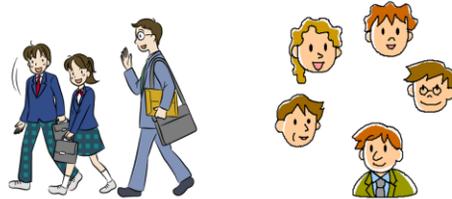
FAX : 0270-20-1284

E-mail : karisen@edu-g.gsn.ed.jp (@を半角に)

< 校内研修プログラム 共通理解編 >

生徒や保護者との より良い関わり

～ 生徒や保護者への関わりについて
考えましょう ～



<★印は、クリックのタイミングを示しています。>

本日は御参加いただき、ありがとうございます。

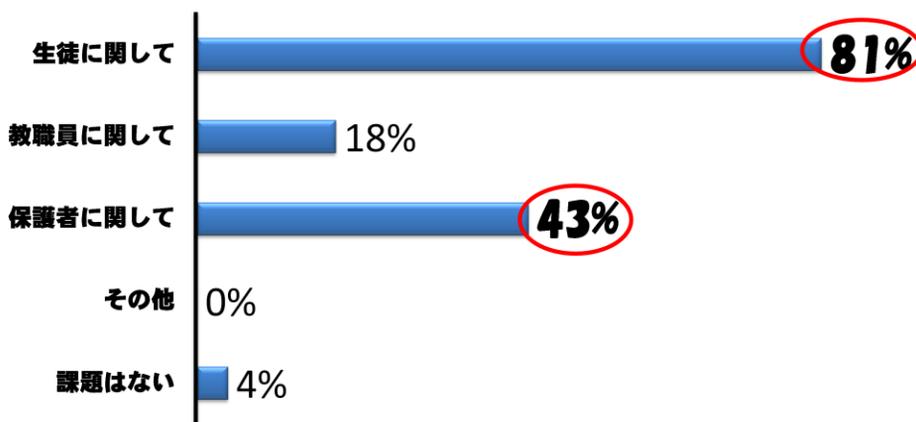
この研修では、今年度、生徒指導を進めていくに当たり、
基本的な、生徒や保護者との関わり方や、居心地のよい学級・学校づくり
について、皆さんで考えていきましょう。

生徒指導・教育相談の課題

小・中学校3年目経験者研修該当者(H29)

生徒指導・教育相談についての課題

(複数回答可)



平成29年6月から7月にかけて、県総合教育センターにおいて、群馬県の小・中学校に勤務する3年目経験者研修該当者の先生方に行ったアンケート調査の結果です。

生徒指導・教育相談に関することで、どのようなことに課題や不安を感じているかを聞いた結果、「生徒に関して」が★81%、「保護者に関して」が★43%でした。

そこで、今日は、生徒と保護者との信頼関係づくりについて考えていきたいと思います。



**生徒とのより良い関わりを目指して
共通理解をしましょう**

- 生徒とのより良い関わりのために
(ポイント・演習)
- 居心地の良い学級づくりのために
(ポイント・演習)
- 保護者とのより良い関わりのために
(ポイント・演習)

★本日はこのような研修をしていきます。
生徒とのより良い関わり、居心地の良い学級づくり、
保護者とのより良い関わりについて、理解を深めたり、演習を行ったりしていきます。

それでは、始めます。

<校内研修プログラム 日常編>

思春期の生徒理解をふまえた 生徒とのより良い関わり

～ 対話を中心に考えましょう ～



<★印は、クリックのタイミングを示しています。>

★本日は御参加いただき、ありがとうございます。

今日の研修では、生徒とのより良い関わり方について、皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

群馬県の教員(小学校・中学校)への調査から

小・中学校3年目経験者研修該当者



このように、先生方も生徒への関わり方に課題や不安を感じています。

★平成29年6月から7月にかけて、県総合教育センターにおいて、群馬県の小・中学校に勤務する3年目経験者研修該当者の先生方に行ったアンケート調査があります。

生徒指導・教育相談のことで、どのようなことに課題や不安を感じているかを聞いた結果、生徒に関しての課題や不安を感じていると答えた先生が、中学校では81%、小学校では87%いることが分かりました。

★※内容を読む。

このように、思春期の生徒への関わり方に課題や不安を感じているようです。

先生方はいかがでしょうか？ 同じような課題や不安を感じているのではないのでしょうか？

今日は、生徒との信頼関係を築くために、より良い関わりの基本となる生徒への対応を対話を中心として、皆さんで考えていきたいと思えます。

生徒へのより良い関わり方について考えていきましょう

- 1 思春期の生徒理解
- 2 より良い関わり方
- 3 みんなで考えましょう
対応編(事例)



★今日は次の内容を取り上げます。
まず、思春期の生徒について理解します。
次に、より良い関わり方を考えます。
そして、事例を取り上げ、より良い関わりを目指した対応を実践していただくための、ワークを行います。
それでは、始めます。

<校内研修プログラム 組織編>

組織を生かした 生徒や保護者とのより良い関わり

～ 組織での対応について考えましょう ～

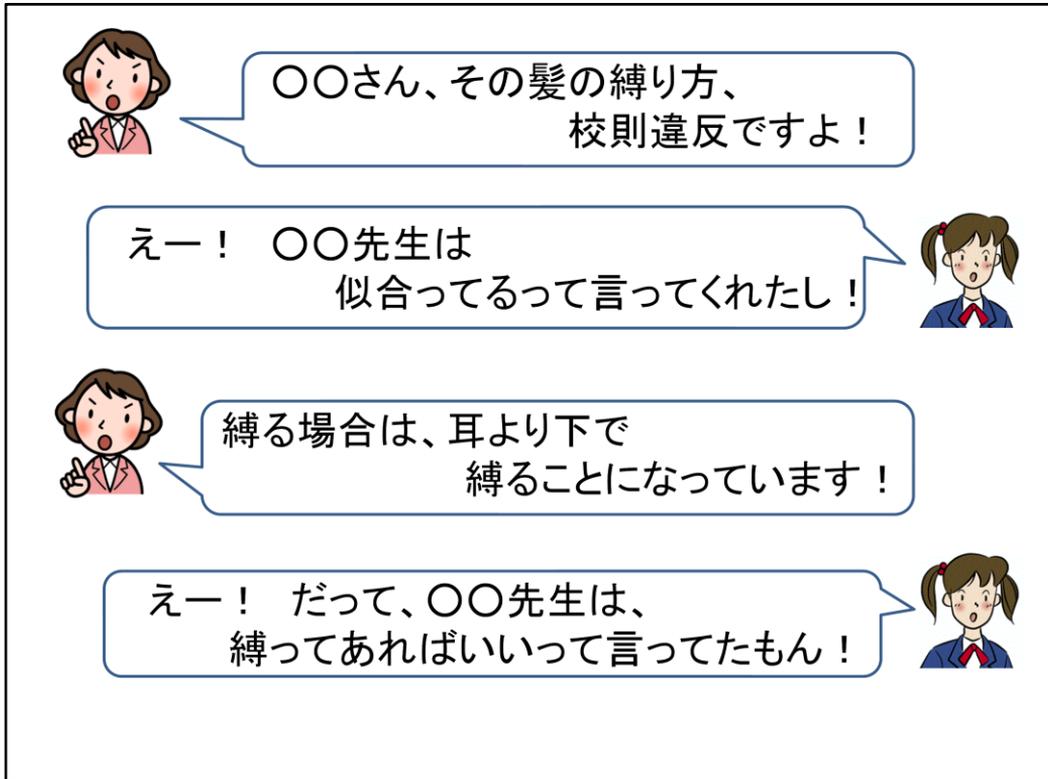


<★印は、クリックのタイミングを示しています。>

※座席は、4名のグループでお座りください。

本日は御参加いただき、ありがとうございます。

今日の研修では、組織を生かした生徒とのより良い関わり方について、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



★読みながら

先生方、こんな経験はありませんか？

先生によって指導したりしなかったり、指導しても言っていることが違っていたりすると、生徒は混乱してしまいます。

このように指導に温度差があったり、指導内容に一貫性がなかったりすると、生徒との関係にも影響が出てきてしまいます。

教職員間の連携に関する課題

小・中学校3年目経験者研修該当者

話し合い、検討の時間が
取れない。

職員間の連携が
うまくいかない。

事例検討会が情報交換
で終わっている。

生徒への指導に温度差がある。

対応の分担がうまくできない。

対応の仕方が
徹底されていない。

担任の負担が大きい。

保護者への対応の
仕方が分からない。



★平成29年6月から7月にかけて、県総合教育センターにおいて、群馬県の小・中学校に勤務する3年目経験者研修該当者の先生方に行ったアンケート調査があります。

生徒指導・教育相談のことで、どのようなことに課題や不安を感じているかを聞いた結果、教職員のことに関して、課題や不安を感じていると答えた先生が、17%いることが分かりました。
また、記述内容から、職員間の連携に関することが多いことも分かりました。

具体的には、★内容を読む。

先生方はいかがでしょうか？ 同じような課題や不安を感じているのではないのでしょうか？

今日は、生徒指導・教育相談において、組織で対応するために、誰と、どのような連携をとればよいのか、皆さんで考えていきたいと思います。

演習①



Empty speech bubble for the first character's response.



Empty speech bubble for the second character's response.

演習②

- ・ 帰りの会の時に、B子が泣いていることに気付いた。
- ・ 帰りの会が終わった後、話を聞こうと声を掛けたが、B子は帰ってしまった。



Empty speech bubble for the woman's response.

振り返っての感想等

Large dashed-line box for writing reflections.

皆さんで考えてみましょう！ ①

事例1

A男は、提出期限が昨日までであった
国語のワークを提出しなかった。
教科担当の教員は、廊下でA男と会った
ときに声を掛け、後日提出するように
A男と約束をした。
しかし、A男は提出しなかった。
そこで教科担当の教員は、A男を職員室
に呼んだ。

★この後、あなたならどんな言葉を掛けますか？ どんな態度で対応しますか？
思春期の生徒理解とより良い関わりを目指した対話や対応を踏まえて、生徒への対応を
考えてみましょう。

[]

★隣の人と共有しましょう！

[]

★皆さんで共有しましょう！

[]

皆さんで考えてみましょう！ ②

事例2

市内の音楽祭に向けて、3年生が体育館で合唱の全体練習をしていた。練習の様子を見ていた1組の担任は、自分のクラスのB男が校則違反に当たる制服の第一ボタンを外して練習に参加していることを発見した。担任がB男にボタンを留めるように声をかけたが、B男は無視して練習を続けた。

★この後、あなたならどんな言葉を掛けますか？ どんな態度で対応しますか？
思春期の生徒理解とより良い関わりを目指した対話や対応を踏まえて、生徒への対応を考えてみましょう。

[]

★隣の人と共有しましょう！

[]

★皆さんで共有しましょう！

[]

<考えてみましょう！>

事例

中2のA子は、2学期が始まって最初の2日間は登校したが、3日目から登校しなくなり、そのまま一週間登校していない。理由は分からない。1学期は欠席はなかった。

①事例の課題を考えましょう。

②課題への対応を考えましょう。

.....
<振り返ってみましょう！>

★今日の研修を振り返って、分かったことや感じたことを書いてみましょう。



サポートブック

生徒とのより良い関わりを目指して



目 次

第Ⅰ章 基本編

- 1 生徒との関わり
 - ・中学生の発達段階の特徴 . . . 1
 - ・対話を大切にした対応 . . . 2
 - ・援助的な関わりを大切にした対応 . . . 5
 - ・生徒との信頼関係を築くために . . . 8
- 2 保護者との関わり
 - ・保護者とつながるために . . . 9
 - ・相談や面談の基本 . . . 10
 - ・電話での対応で気を付けたいこと . . . 12
- 3 教職員間での関わり
 - ・教職員間の連携のために . . . 13
- 4 その他
 - ・部活動での関わり . . . 15
 - ・居心地の良い学級づくり . . . 18
 - ・生徒間のトラブルへの対応 . . . 19

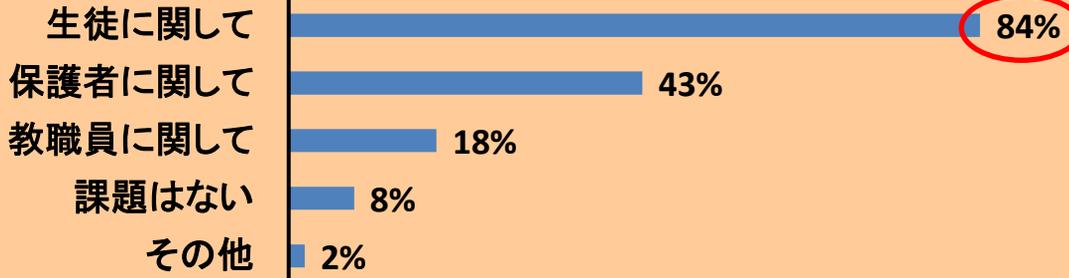
第Ⅱ章 対応編

- 1 いじめ問題への対応
 - ・いじめ問題への組織的対応 . . . 20
 - ・いじめ問題の未然防止に向けて . . . 22
- 2 不登校問題への対応
 - ・不登校問題への組織的対応 . . . 23
 - ・不登校問題の未然防止に向けて . . . 24
- 3 みんなで考えましょう
 - ・ケース会議 . . . 25
 - ・事例研究 . . . 26



生徒指導・教育相談の課題

H29年6月 中学校3年目経験者研修該当教員



思春期の生徒にどのように接してよいか分からない。

生徒と信頼関係が築けるか不安。



毅然とした指導が難しい。

厳しい指導になってしまったと反省することが多い。

中学生(思春期)の特徴

自立の気持ちが強まります

自分らしさを発揮したい。

他人に縛られたくない。

気持ちは...

- ・自立したい
- ・けれど、自立は大変
- ・まだ甘えたい

自分で判断し行動したい。

新しいことに挑戦したい。

行動は...

- ・大人(親・教師)を無視する
- ・話さない
- ・反抗と甘えを繰り返す

自立したい

矛盾した気持ち

人に頼りたい

※気持ちの矛盾を乗り越えて自立していく

自分のことが気になります

友だちからどう思われているのだろうか？



私って、どんな性格なんだろう？

自信がない

不安に思う

自分が嫌になる

意識が自己の内面へ向いてきます。

自己肯定感が低い

対話を大切にした対応

生徒との関わりのスタートは対話です



対話の基本は、「傾聴・受容・共感」です。

<傾聴>

- 丁寧に聴く。支持しながら聴く。
- うなずき・相づち・声のトーン・表情(非言語的なメッセージ)などを活用しながら聴く。

<受容>

- 考えや気持ちは受け止める。**行動や行為とは区別する。**
※なんでも受け入れるということではない。

<共感>

- 生徒の立場に自分を置く。
- 思いをくみ取り、相手に返す。

対応するときの態度は

「答える」 → 「応える」

- 答えを伝えるのではなく、気持ちに応える。

「受容」と「問い掛け」

- 指導的に助言を行うのではなく、生徒の思いを肯定的に受け止めながら聴き、生徒が答えを導きだせるような問い掛けをしていく。

対応する場所は

- 思春期の生徒は、「自分が他者からどう見られているか」を気にします。他者の目が気にならない場所が良いですね。

対応する人数は

- 対応する人数や、誰が対応するかをあらかじめ話し合っておくと良いですね。

困ったときには、一人で抱え込まず、みんなに相談しましょう！

うん、うん、
それで？

どうして
そう思うの？



なるほど。そんな風に思っていたんだ。
(感じていたんだ。)よく分かったよ。

対話を大切にした対応

例えば、こんな感じで

傾聴・受容



〇〇高校を受けたいです。

自分の学力に合っているし、高校でも部活をやりたいと思っているんです。

〇〇高校に行きたいんだ。どうして〇〇高校なの？

関心をもって聴く

勉強と部活動の両立も考えてのことなんだね。

肯定的に受け止める



先生、合唱練習全然進みませんもう、嫌です。

練習が進まないんだね。

生徒の言葉を繰り返す

あなたは、実行委員の仕事を一生懸命やっているよね。どんなことに困っているの？

頷きながら話を聴く

※態度でも「受け止めている」ことを伝える。

黒板に書いて知らせているんだね。

※肯定的に受け止めていることを、言葉でも伝える。



黒板に練習予定を書いているんだけど、みんな見てくれないんです。

共感



いろいろあったけど、最後までみんなで頑張りたいんです。

仲間を大事に思っているんだね。

感情や思いをくみ取る



『傾聴・受容・共感』を意識した対話を通して、安心して語れる場を生徒に提供することが大切です。

対話を大切にした対応

こんな時は、どうでしょう？

遅刻を繰り返す生徒がいます。



今日も遅れた。そんなことじゃダメだ…。



今日は五分早く着けたね。(遅かったね)



遅刻をするな！



慌てると、思わぬ事故やケガにつながります。だから余裕を持って登校しましょう。



また遅刻して！



どうしたら遅刻しないで登校できるかな？
そのために、あなたができることはどんなことかな？

諭すように指導することが有効なときもあれば、本気で叱らなければならないこともあります。

**例えば … 命にかかわること
自分や友だちを傷つけること(心身共に)
ルールから逸脱した問題行動**



援助的な関わりを大切にした対応

援助的な関わりも意識して

援助的な関わり

- ① 困りを共有してから、今できることを一緒に考えていく。
- ② 生徒が使った言葉を遣う。
- ③ 生徒の内面を聴く(問い掛ける)。
- ④ 話題がはっきりするように。
- ⑤ 別の見方で言い換える(リフレーミング)。
- ⑥ 方策を確認し、支持する。

① 困り感の共有、一緒に考える



「それで困っているんだ」「それは大変だね」
「そこが心配なんだ」「あなたの不安な気持ちはよく分かるよ」
「そのためにどんなことをしたら良いと思う？」
「どれならすぐにできそうかな」

② 生徒が使った言葉を遣う



もう勉強が嫌になりました。

嫌になってしまったんだね。
どうしたの？何かあった？



③ 生徒の内面を訊く(問い掛ける) 言葉を遣う



なんだか、イライラして。

イライラしていたから言葉がきつかったんだね。

どんなときにそうなるの？



④ 話題がはっきりするように



将来のことや、部活動を続けることを考えると…。
でも、他の高校でもいいかなって思うときもあるんですけど。

将来のことや、部活動を続けたいって希望もあるんだ。
今のあなたの勉強方法はどんな感じ？そのあたりを詳しく教えて。



援助的な関わりを大切にした対応

⑤リフレーミング



何で仕上がらないのかなあ？美術なんてなければいいのに。



〇〇さんは、細かい部分まで丁寧に仕上げようとするから時間が掛かるのかもしれないね。
丁寧に仕上げようとする姿勢は、〇〇さんの良いところだよ。

⑥方策の支持・確認



どうしよう、今度の期末テスト頑張らないと。でも、時間ないし、何もやってない。

じゃあ、まず何をすればいいかな？

でも、勉強の仕方が分からないし。社会は範囲が広いし。

じゃあ、教科書の太字のところだけ中心に覚えてみる？

あと、ワークの基本のところとか。

そうだね、それもいいね。どっちがやりやすいかな？

ワークの基本のところだけやってみようかな。

そうだね、まずやってみよう。

表情・身振り・手振りも大切です

口で「期待している」と言っても
心で期待していなかったら？

7%
言葉

重要な連絡は、顔を
合わせて伝える。

38%
声・トーン

授業でも、表情等
を意識する。

55%
表情・身振り・手振り

メラビアンの法則

言葉 : 7%
声・トーン : 38%
表情・身振り・手振り : 55%



人は相手の言葉より、**表情やしぐさ、声の出し方といった非言語的なメッセージ**から受け取るものが多いと言われています。

生徒との対話を進めていくときに、言葉だけでなく、非言語的なメッセージを意識して、「あなたの話を聴いているよ」「受け止めているよ」という、**表情や身振りを取り入れながら**、言葉のやり取りをしていくと良いですね。

援助的な関わりを大切にした対応

こんなことにも気を付けて



うまくってないです！

言葉は否定的ですが、
声のトーンや表情が明るい。

大丈夫そうかな…。



そうなの。うまくってないの？
その中でも、少しはうまくいっているところもあるのかなあ？



うまくいってます…。

言葉は肯定的ですが、
声のトーンや表情が暗い。

ちょっと心配かな…。



そうなんだ。どんな感じなのかなあ？
ちょっと教えてくれる？



さらに対話を進め、気持ちや様子を
詳しく聴いていきます。



言葉に出していることが気持ちの全てではなく、言葉とは反対の気持ちだったり、なかなか本音を言ってくれなかったりということがあります。**言葉だけでなく、表情や声のトーン、姿勢などにも気を付けると良いですね。**



生徒との信頼関係を築くために

第一章 基本編



生徒との信頼関係を築くために、まず、自分を振り返りましょう！



生徒に指導していることを教師自身もできているでしょうか。

身なりを整える

身なりを整えることは、他者の目を意識することにつながります。教師としての自分を見ている生徒の目を意識することにつながります。

時間を守る

例えば、教師自身が授業の開始時間を守っていないのに、生徒にチャイム着席を指導しても、指導の効果は薄れてしまいます。



教室等、生徒が学ぶ場所の環境は整っているでしょうか。

一緒に清掃する

教師がゴミを拾って見せたり、清掃を一緒にすることで、生徒の美化意識を育てることにつながります。

教室環境を整える

生徒が帰った後、机やイスの整頓、ロッカーの上の整理等、教室環境を整えることで、生徒の心も落ち着きます。



生徒と話すとき、生徒の目を見て話しているでしょうか。

目を見て語りかける

教師の視線によって、生徒の感じ方が変わります。教師の気持ちを生徒は敏感に感じます。生徒の目を見て、思いを伝えましょう。



生徒を呼んだり、指名したりするときに配慮をしているでしょうか。

呼び捨てにしない

生徒に対して平等に接する意味でも、名前の呼び方には配慮が必要です。また、生徒と教師は友達ではありません。適度な距離感を失わないようにはじめを持って接することが大切です。

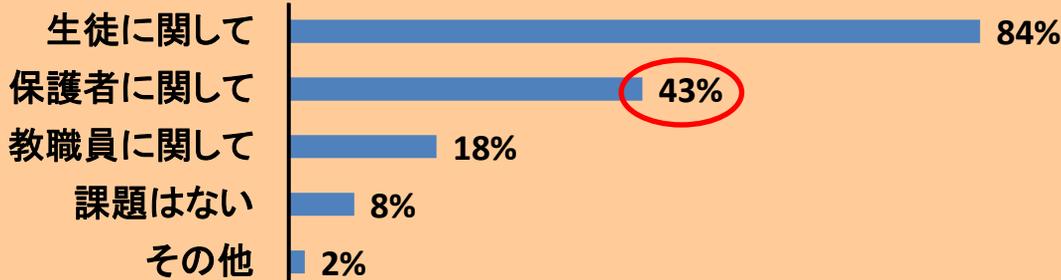
こんなことにも気をつけましょう



指導の基準のぶれが生徒との信頼関係を損なうことにつながりかねません。指導の基準を生徒によって変えたり、その場その場で違う対応をしないことが、生徒との信頼関係を築くことにつながります。

生徒指導・教育相談の課題

H29年6月 中学校3年目経験者研修該当教員



保護者との関係づくりがうまくいかない。

保護者への対応がうまくいかない。

学校の考えを理解してもらうことが難しい。

家庭の協力が得にくい。



保護者とつながるために・・・ちょっとした心掛け

学級通信で

「先生は、ここを大切に教育をしている」「子どものこんな面をみている」ということを伝えるよう心掛けましょう。



「発行すること」が目的になっていませんか？「伝えたいこと」があるから発行するのです。

保護者会で



笑顔で明るく振る舞い、張りのある声で堂々と話すよう心掛けましょう。自信を持って振る舞い、安心感を与えることが大切です。

個人面談で



日頃から子どものよさに目を向け、面談ではよさを具体的に言えるようにしましょう。また、三つ褒めて一つ改善点を示すくらいがよいでしょう。

家庭訪問で

家の中を見回したり他の部屋を見たりしないように気を付けましょう。



保護者への共感と理解を心掛けることが大切です。

電話対応で

最も大切なことは「聴き役に徹する」姿勢です。苦情の電話では、焦らず慌てず対応することが大切です。また、挨拶を大切にしましょう。「いつもお世話になってます」の一言を忘れずに。



相手が電話をして良かった思えるようにしましょう。

保護者との相談や面談の基本

第1章 基本編

傾聴・共感



保護者の話を十分に聴く。
保護者の気持ちをそのまま受け止める。
言い分を聴く。
保護者の話を聴いた後、こちらの意見等を話す。



「大変でしたね」「よく相談してくれました」等、
共感やねぎらいの一言から始めましょう。

落ち着いた態度で共感(身振り、手振りなども使いながら)しながら、**事実、想像、感情**を整理して状況を把握する。



分かりにくい内容は、メモを取りながら確認し聴くこともよいでしょう。
できれば、電話等のやり取りより、直接「**顔を合わせて**」話すことが望ましいです。

提案、指示 約束



対応策について、「いつまでに、何をするか」を提案(指示)する。その場で答えることができないときは、いつまでに返答するかを伝える。



具体策をその場で提案できないときには、**関係する先生方と相談**しましょう。また、必要に応じて、**他の先生方にも報告し、共通理解**を図りましょう。

事後の対応



生徒の様子や対応策の進行状況等を保護者に連絡し、**情報交換と共通理解**を図る。



解決したと思われた後も、**しばらくの間は継続して様子**を伝えていきましょう。

参考:「保護者とのかわりハンドブック」
大阪府教育センター

保護者との相談や面談の基本

こんなことありませんか？ ☹️ こんな対応はどうでしょう 😊



「何しに来たの？」「どんなことを言ってくるのだろう…」



お忙しいところお世話になります。



「自分勝手なことばかり言って…」



お母さんの気持ち分かります。



一人で対応すると、後で思い違いが生じたとき、大きなトラブルになる恐れが。



標榜で対応することで、話し合いが冷静に進められ、思い違いを防ぐことができます。



「昨日、うちの子が突然学校に行きたくないと言い出して…」
記憶だけで対応すると、思い違いや事実の誤認が生じます。



記録を残すことで、**思い違いを防ぎ**、保護者との関係を良好に保つことになります。



「まっ、いいか。連絡しなくても。面倒だし…」



手間を惜しまず、気になることがあったら**すぐに対応**することが、保護者の信頼を得ることにつながります。

保護者への電話での対応で気を付けたいこと

電話を受けるときは、明るく丁寧に



はい(おはようございます)(こんにちは)、〇〇中学校の〇〇です。

※相手を待たせた場合は、「お待たせしました」の一言を。

感謝とねぎらい



はい、〇年〇組担任の〇〇です。〇〇さんですね。

いつもお世話になっています。お忙しい中、お電話をいただきありがとうございます。

傾聴



本日は、どのようなご用件でしょうか。詳しく聴かせていただけますか。

※相手の話を聴く姿勢を示しましょう。

※話の途中でさえぎることのないようにしましょう。

※相づちを打ち、保護者の気持ちを受け入れるような言葉を掛けながら聴きましょう。

共感



〇〇のことがご心配なのですね。お気持ちはよく分かります。

担任や担当者以外が受けたときは・・・



〇年〇組の〇〇さんですね。担任(担当)に代わりますので、少々お待ちください。

※相手が名乗らない時は、「失礼ですが、どちら様でしょうか」の問い掛けをしましょう。

担任や担当者が不在のときは・・・



申し訳ありません。あいにく〇〇は、本日は不在です。(部活動指導中です。)
差し支えなければ、私がお話を伺いますが。

※相手が用件を話した場合は、内容をしっかり聞き取って、メモを取りましょう。



では、後ほどこちらからご連絡いたします。
お電話(ご連絡)ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

※保護者の連絡先や連絡が可能な時間等を聞きましょう。その際は、メモを取りながら
復唱し、確認することを忘れずに。

※メモは、必ず担任や担当者へ引き継ぎましょう。

こんなことにも気を付けましょう！



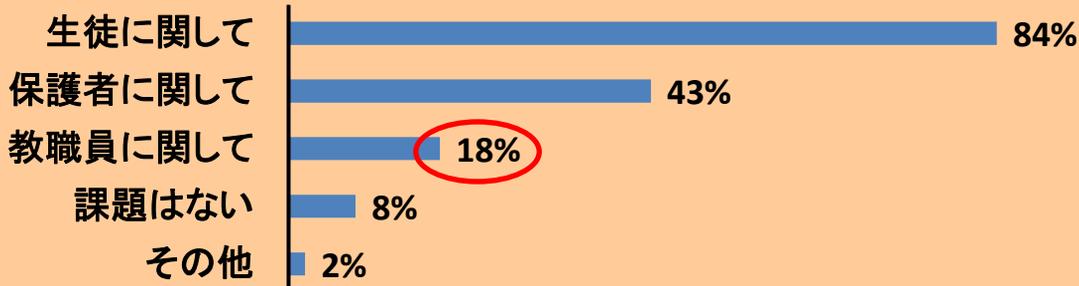
○周囲の人は、電話を受けた人が聞きやすいように配慮しましょう。

○電話であっても態度や雰囲気は伝わります。相手が目の前にいるつもりで対応しましょう。

○相手が電話を切ってから、切るようにしましょう。

生徒指導・教育相談の課題

H29年6月 中学校3年目経験者研修該当教員



生徒への指導に
温度差がある。

対応についての担任の
負担が大きい。



職員間の連携が
うまくいかない。

話し合い、検討の
時間がとれない。

教職員間の連携のために

斜めのつながり

養護教諭
用務員等



縦のつながり

管理職
生徒指導主事等



このつながりが
大事！



同学年や他学年の
教員

横のつながり



教員が知らない生徒
の顔を知っていたり、
様々な情報を持って
いたりします！

生徒（保護者）との関わりで課題や問題が生じた時、一人で抱え込まず、職場の様々な立場の人に相談してみましょう。日頃から、相談できるように、**他の教職員との関係づくり**をしておくといいですね。

また、生徒（保護者）との関わりに限らず、生徒指導上の課題や問題への対応は、**組織で対応すること**が重要です。

教職員間の連携のために

中堅教員からの声…

日常での心掛けていること

経験豊かな先生に意見を聞いています。

一人で抱え込まないで相談するように心掛けています。

報告・連絡・相談を必ずするようにしています。

保健室とのつながりを大切にしています。



教職員間のつながりのために気を付けていること

教職員間の対話や、日頃からの関係を大切にしています。

多くの先生に関わってもらうようにしています。

一人で対応せず役割分担をしています。

他のクラスの様子にも気を配り、困ったときには相談に乗るようにしています。

職員室を話しやすい環境にしています。

学年会を定期的に行い情報共有をしています。



このように、中堅の先生方は組織で対応することを心掛けています。そして相談されることを待っています。悩んだり、困ったりしたら遠慮せず相談しましょう！



部活動での生徒との関わり



経験のない部活の顧問になってしまって…不安だなあ…。

その種目のルール等を学んだり、関係する情報を積極的に収集し研究したりすることが大切です。**顧問自ら学ぶ努力をしたり、一緒に活動したりすることで、部員との信頼関係を深めましょう！**



部活動と学習を両立させるためにはどうしたらよいのかなあ…？

学級担任との連携が大切です！ 学習や生活状況の様子を知り、両立させるよう指導を続けましょう。



部活を休みがちな部員の対応はどうすればよいのかなあ…？

まず、休む原因について、本人との**面談や練習日誌、学級担任や保護者からの情報などから把握**しましょう。そして、悩みや不満があれば取り除くように対応していきましょう。



保護者に部活動の目的や基本方針等について理解を得るなど、**家庭との連携を図っていく**ようにしましょう。



活動を保護者に理解してもらうためにはどうすればよいのかなあ…？

保護者に**部活動の意義や学校の方針、各部の基本方針等を伝え**理解を得るようにしましょう。



部活動だよりの発行、保護者会の開催、試合だけでなく、練習の見学会を計画・実施するなど、保護者に理解を得られる取組をしていくようにしましょう。

部活動での生徒との関わり

カウンセリングとコーチング、どちらも必要

カウンセリングとは

「このようにしなさい」などの指示や、「このようにもできますね」という提案はしません。

コーチングとは

本人が気付いていないと思われる部分を指摘し、質問し、考えてもらいます。答えは与えず、見付けてもらいます。

← カウンセリング

コーチング →

話を聴くことで
心を軽くする。

積極的傾聴
共感的理解

指摘・質問を
通して気付きを
引き出す。

カウンセリングを意識して

- 困りを共有してから、今できることを一諸に考えていく。
- 生徒の内面を聴く(問い掛ける)。
- 話題がはっきりするように。
- 別の見方で言い換える(リフレーミング)。
- 方策を確認し、支持する。

解決志向のアプローチを意識して

<例>

- できているところを聴く質問
「これまでに、できていることや、まあまあだと思えることはどんなことですか？」
- 肯定的な未来に関する質問
「もしやれたらどんなこと(状況)が手に入りますか？」
- 一歩前に進むための方法に関する質問
「一歩前に進むためにできることは何でしょう？」



カウンセリングとコーチングを使い分けることが重要ではなく、「サポートしたい」「答えは生徒自身の中にあり、それを引き出す」という意識を常に持ち、生徒と向かい合うことです。

部活動での生徒との関わり

例えばこんな時・・・



こんな対応はどうでしょう

カウンセリングを意識して

先生、もう部活やめたいです。

どうしたの？何かやめたくなるようなことがあったの？

練習がきつくてついていけないんです。

そうかあ、きつくてついていけないんだね。今まで頑張ってきたよね。

<傾聴・受容>

でも、疲れちゃって。家に帰ってすぐに寝てしまって、勉強もしないと・・・。

そうかあ、疲れてしまうんだね。勉強もしたいと思っているんだね。

<共感>

先生、どうしても今度の大会は優勝したいんです。

そうかあ、優勝したいんだね。

どうしたら、優勝できますか？教えてください。

<傾聴・受容>

優勝するために、どうしたら良いかを知りたいんだね。

<共感>

ここからは解決志向を意識して

今できていること、まあまあできていることはどんなことかな？

じゃあ、もう一歩優勝に近づくためにできることはなんだろう？

※このように質問しながら、答えを引き出していきます。

居心地の良い学級づくり

第一章 基本編

生徒の実態把握

日常で

行動観察や記録
学年での情報交換

組織的
計画的

職員会議等での情報共有
ケース会議等

客観的な
データ

アンケート調査
各検査

組み合わせることで、
きめ細かな実態把握へ

学級集団づくり

あたたかい雰囲気づくり

相手の立場になって考える。
お互いを認め合える。
お互いのよさを見付けようとする。
自分の考えを言える。
活躍の場がある。

バランス
が大切



規律ある雰囲気づくり

自分勝手な態度への適切な指導。
生徒同士のトラブルへの対処。
校則違反への適切な指導。
いじめ等への適切な指導。

取組例 : 班編制を活用した人間関係づくり レクリエーションやゲームで人間関係づくり

生徒指導の三つの機能を重視した授業づくり

分かる授業・楽しい授業を展開

自己決定

自分で考えたり
活動したりする
場を取り入れて。



8段に挑戦
してみたい。

共感的人間関係

認め合い、学び
合う場を取り入
れて。



〇〇さんの
跳び方はきれいだな。

手をつく位置を
見てくれる？

自己存在感

自分のことを受
け止めてもらえ
たと実感できる関わり
を取り入れて。

認めてもらえて
うれしいな！



手をつく位置が良
くなって、美しい跳び方
になったね。

生徒間のトラブルへの対応



部活で自分だけ仲間外れにされた！



仲間外れにしてはいない！



悪口を言われた！

悪口は言っていない！



話を聴くときに、表情や態度、声のトーンなどにも注目しましょう

個々に話を聴く

事実のみを聴きます。また、時系列で整理すると良いですね。

聴き取った内容を確認

聴き取りを行った教員同士で、聴き取った内容の確認を行います。

聞き取った内容が合致したら

聴き取った内容に食い違いがあったら。

再度、生徒に確認

生徒も交えて事実関係を確認

行動・行為の振り返り

自らの気づきを促すようにすると良いですね。例えば、「～についてどう思う？」という質問を投げ掛けるなど。

これからについて考える

自らの気づきを基に、「～したらどうだろう」＜提案＞「～という考えもある」＜アドバイス＞という形で投げ掛けることで、**考える場を与えられる**と良いですね。

指導前、指導中、指導後等、必要に応じて保護者への連絡を忘れずにしましょう！



いじめ問題への組織的対応

いじめ対策組織

※構成員は一例です

管理職 生徒指導主事 教育相談担当
学年主任 養護教諭 スクールカウンセラー 等

外部機関

(例) <報告>

学級内のいじめを把握

学年主任 担任
当該学年職員
SC 生徒指導主事

(例) <報告>

部活動内でのいじめを把握

学年主任 担任
部活動顧問
SC 生徒指導主事

※対応チームは一例で、事案により柔軟に編制

いじめの実態調査

アンケートの実施
個人面談等の実施

いじめであるか否かの判断は、組織(学校いじめ対策組織)で行います。



いじめを把握したら、「学校いじめ対策組織」に報告をしましょう。
いじめは、どの学校にも、どの学級にも、どの子どもにも起こりうるとの前提の下で、担任や一部の教職員だけで問題を抱え込まないことが大切です。

対応を考えてみましょう！(事例)



担任している女子生徒Aの生活ノートに、「同じクラスの女子生徒数名から、陰で悪口を言われている気がする」との記述があった。

担任している男子生徒Bから、「筆記用具を隠される」とことがあるとの訴えがあった。ここ数日の様子を思い出すと、表情が暗いように感じた。

いじめ問題への組織的対応

担任している女子生徒Aの生活ノートに、「同じクラスの女子生徒数名から、陰で悪口を言われている気がする」との記述があった。

<対応>

本人に話を聴く。

保護者に連絡をする。

周りの生徒に話を聴く。

学年主任や生徒指導主事等に相談をする。

学校の「いじめ対策組織」に報告をする。

担任している男子生徒Bから、「筆記用具を隠される」ことがあるとの訴えがあった。ここ数日の様子を思い出すと、表情が暗いように感じた。

<対応>

本人に話を聴く。

保護者に連絡をする。

学年主任や生徒指導主事等に相談をする。

学校の「いじめ対策組織」に報告をする。

この二つの事例、教職員が「**いじめでは？**」という認識を持つことができるかがポイントです。



担任だけで対応せず、**複数の教職員で組織的に対応**をすることが大切です。

日頃から、速やかに、**報告・連絡・相談できる体制づくり**をしておくことが大切です。



全教職員が「**いじめを絶対に許さない**」という共通認識を持つことが大切です。
校内研修等を通して、全教職員でいじめ問題に対して、**共通理解**を図りましょう。

いじめ問題の未然防止に向けて



いじめについて正しく理解していますか？
教職員の不適切な理解が、いじめ行為の見過ごしや見逃しにつながることがあります。

例えば、こんな場面



その髪型、なんだかおもしろい！



〇〇がシュートを外さなければ勝てたのに！



えー、こんな問題もできないの？



教職員の不適切な言動が、いじめを容認するものと生徒に受け止められ、いじめを生じさせることにつながります。

例えば、こんなことはありませんか。

<例> うけねらいの言動

例えば、生徒をニックネームで呼ぶなどです。うけをねらった言動が生徒の人格を傷つけることやいじめへと発展させることにつながります。

<例> 指導のための発言が、周囲にマイナスイメージを与えてしまう

例えば、動作がやや緩慢な生徒に、「まだ準備できないの」「早くしなさい」等の言葉を発してしまう。そのことが他の生徒に、はやし立てる気持ちを起こさせてしまうことにつながります。

教師の言動が、生徒にも大きな影響力を持つことを認識しましょう。
教師自らの言動が、生徒を傷つけたり、いじめを助長したりすることがないように注意を払うことが大切です。



不登校問題への組織的対応

不登校対策会議（ケース会議）

※関係教職員等は状況に応じて変わります。

管理職 不登校対策担当教員 教育相談担当
生徒指導主事 学年主任 養護教諭
スクールカウンセラー 等

◎支援チームの状況を把握し、今後の対応について助言を行う。

指導記録

支援チームA

支援チームB

例) 担任 養護教諭
スクールカウンセラー

例) 学年主任 担任
部活動顧問

※支援チームは、状況に応じて編制する。

組織対応のポイント

- 欠席に対する対応方法等を全校で年度当初にルール化する。
- 不登校対策会議や、事案ごとの支援チームを組織し、役割分担をする。
- 指導記録の共有化を図る。

ケース会議のポイント

- 時間を定めて定期的を開催する。
- 指導記録を基に、情報の共有化、見える化を図っておくと、検討を効率的に進めることができます。
- これまでの対応の適否や今後の対応策と役割分担（誰が、いつ、どのような対応を行うか）、次回の日程等を検討します。

不登校問題の未然防止に向けて

未然防止(学級経営の充実)

個を育てる



＜受容、共感で信頼関係づくり＞
(例) ・生活ノートのやり取り
・授業以外も一緒に活動

＜自己肯定感、自己有用感を育む＞
・係、当番活動の工夫・充実

相互作用

集団を育てる



＜人間関係とルールの両方のバランス＞
・生徒主体の話合い

＜人と関わる喜びを獲得できる＞
・生徒主体の行事等を計画し、
指導・支援に取り組む

初期対応(早期発見・早期対応)

生徒の出しているサインに気付く。



- ・授業中、いつもと様子が違う。 ・休み明けの欠席が増える。
- ・保健室や相談室に行く回数が増えるなど。

(※)

サインの要因について情報を集める。

- ・いじめ等(※)、人間関係のトラブル
- ・家庭環境の影響など。

いじめの重大事態

いじめにより、児童等が相当の期間
(年間30日を目安、一定期間、連続
して欠席している)学校を欠席するこ
とを余儀なくされている疑いがあると
認めるとき。

「いじめ防止対策推進法」第5章第28条

休み始め(1日～2日)のサインを見逃さない。

- ・担任が電話連絡をする。 ・2日欠席でミニ会議を実施する。



気付いているサインを情報共有することが大切です！

連続3日欠席を目安に家庭訪問をする。

- ・事前に連絡し、時間を決めるなどの配慮が大切です。
- ・保護者の困り感に寄り添う。 ・支援することを伝える。



SSW(スクールソーシャルワーカー)って？

- ・SSWは、「福祉の専門家」で、生徒を取り巻く環境の改善を目指し、関係機関等とのネットワークを活用したり、ケース会議をしたりして、困難な事案の解決を図っていきます。
- ・SSWの活用は、学校の指導体制を充実させることにつながります。

ケース会議

このようなシートを活用して(例)

ケース会議 (月 日)	年 組	氏名	参加者				
① 情報の収集			② 問題の背景(仮説)				
③ 問題からの課題			④課題の取り 組みの順	⑤ 課題への対応		⑥ 担当	
◆次回の予定			月	日()	時	分~	場所()
◆参加者							

ケース会議

- 情報の共有化
- 問題の理解(背景)
- 対応や支援、役割分担等の決定
- 次回の日程等の決定



ケース会議を開き、**情報の共有、具体的な対応や支援、担当者**までを決め、**組織で対応**することが大切です。

事例研究

第2章 対応編



事例研究とは・・・

生徒の資料や情報の共有を通し、**学校の組織的な対応を促すこと**を目的としているものです。ある生徒について、複数の教職員が持ち寄った資料を基に、適切な対応や指導を考えていきます。

主な事例研究の方法

<短縮事例法(シカゴ方式)>

・学校が行った**指導上の問題点とその改善策を考える**ことを目的にしています。

主な手順

- ① 事例文の問題点から課題を整理する。
- ② 課題に対しての具体的な対応策を個人で考える。
- ③ 個人で考えた対応策を基に、グループで対応策を考える。
- ④ グループで考えた対応策を発表し、意見交換をする。

<インシデント・プロセス法>

・**生徒に関する情報収集と理解**を進める中で、問題の背景や解決策を考えることを目的としています。主な手順は、短縮事例法と同じですが、個人で対応策を考える前に、情報を質疑応答で収集します。

<K-13法>

・全部で13の内容に取り組み、問題の理解と対応策を検討していきます。発生要因や解決方法を付箋等を活用し整理し、対応策を考えていきます。



このような方法で、みんなで対応策を考えられると良いですね。事例研究の方法は、この他にもありますが、学校の状況に合った方法で、継続して取り組んでいくことが大切です。

